

旗上弁財天社

旗上弁財天社は、知識、美、および芸術の女神である弁財天を祀っています。弁財天は水ゆかりの女神なので、弁財天を祀る神社はしばしば池、湖、または海の近くに建てられます。鶴岡八幡宮では、12世紀末に創建されてから、弁財天が祀られています。源頼朝（1147-1199）は1180年に敵対する平家と戦をする前に、弁財天に必勝を祈願したとのこと。そしてついに平家に勝利し、自身を武士としての日本の支配者として打ち立てました。そして政権を鎌倉に置き、鶴岡八幡宮を鎌倉の信仰の中心地としたのです。

現在の社殿は、鶴岡八幡宮の創建800周年を記念して、文政年間（1818-1830）に描かれた絵を基に1980年に建てられたものです。階段の上には、琵琶を演奏する弁財天の彫刻があります。境内に掲げられている白い幕は、地元の氏子崇敬者が奉納したもので、源氏が戦で使用した旗に由来しています。旗を奉納すると、頼朝が戦に勝ったように自身の願いも叶うと考えられています。社殿の裏には政子石があります。名前の由来となったのは頼朝の妻である北条政子（1156-1225）で、人々はここで夫婦円満と子授けを願って祈ります。